

# 組織力を生かした本校の働き方改革

土岐市立泉小学校

## 1 取組の内容

### (1) 属人化の防止「組織的・迅速な対応と勤務時間把握による負担軽減および年休取得促進」

①	事案対応の流れの明確化
②	即日対応の徹底
③	勤務時間の正確な把握
④	年休取得を支える組織体制

### (2) ICT活用・会議体系の見直しと若手支援による業務効率化

①	ICTを活用した会議の効率化
②	会議体系の再編による会議数の削減
③	学年主任会の位置付け強化
④	若手職員を支える組織的支援体制

## 2 取組の結果

### (1) 組織的・迅速な対応と勤務時間把握による負担軽減および年休取得促進

①	<b>事案対応の流れの明確化</b> ・担任 → 学年共有 → 生徒指導主事 → 管理職（教頭）へ報告 ・事案発生から対策までの一連の流れを明確化し、属人化を防止
②	<b>即日対応の徹底</b> ・主担当と教頭が当日中に状況共有、必要に応じて即日ケース会議を検討 ・「悪いことほど早く報告」を全職員で共有
③	<b>勤務時間の正確な把握</b> ・職員室入口に打刻PCを設置し、確実に出勤を電子打刻 ・毎月、超過勤務の状況を管理職で共有し、長時間勤務を早期発見・早期対応
④	<b>年休取得を支える体制</b> ・教務主任による補欠授業調整…空き時間の職員が代替授業を快く担当 ・事務職員が年休管理を丁寧に運用…「年休カレンダー」で可視化

### (2) ICT活用・会議体系の見直しと若手支援による業務効率化

①	<b>ICTを活用した会議の効率化</b> ・Teams、Goodnotesを活用し、資料の事前共有 ・会議時間60分以内を目標として設定 ・説明時間を最小限に抑え、協議・意思決定を効率化
②	<b>会議体系の再編による会議数の削減</b> ・従来の「指導部会 → 運営委員会 → 職員会」の見直し ・運営委員会を廃止し「指導部会 → 職員会」の二段階に再構成 ・提案者が指導部会の協議結果を反映して職員会へ臨む運用に変更 ・毎週の職員打合せを隔週開催とし、会議の総量を削減…スリム化
③	<b>学年主任会の位置付け強化</b> ・学年主任会を約2週間に1回開催 ・学年内外の情報共有と意思決定を迅速化…他学年の取組や状況、児童理解 ・学年マネジメント力の強化と会議効率向上に寄与…運営委員会の補完機能
④	<b>若手職員を支える組織的支援体制</b> ・行事や学級経営の情報共有で若手が抱え込まない体制を整備 ・校務分掌は複数担当制で負担軽減 ・保護者対応にベテラン職員が同席…段階的に「生徒指導主事」→「教頭」が同席 ・若手が意見しやすい職場風土の醸成

## 3 成果

本校では、生徒指導事案の報告・共有体制の明確化、勤務時間の適正把握、年休取得を支える仕組みづくり、ICTを活用した会議の効率化、会議体系の見直しなど、組織として取り組んだ一連の働き方改革が、確かな成果として表れている。特に、運営委員会を廃止したことにより、従来の会議体系を「指導部会→職員会」の二段階に再編した結果、運営委員会を行っていた月と行わなかった月を比較すると、教職員一人当たりの超過勤務時間が1時間23分減少するなど、具体的な時間削減につながった。また、業務改善の推進により負担の偏りが軽減され、全国的に「メンタル不調による病気休暇取得者」が増加傾向にある中でも、本校職員が誰一人欠けることなく勤務できていることは大きな成果である。これらの成果を確かな土台として、今後も教職員が互いに支え合いながら、子どもたちの学びと向き合える働きやすい学校づくりをさらに推進していく。